

## 有限会社イトーファーマシー

### <イトーファーマシーの歩み>

1987年 薬局開設。95年に法人化  
 1997年 ホームヘルパー養成事業開設  
 2000年 介護保険制度スタート。「居宅介護支援」「訪問介護」開設  
 2001年 認知症対応型通所介護開設  
 2008年 IT経営実践認定企業  
 2009年 中部IT経営力大賞優秀賞受賞  
 2010年 ハイサービス300選  
 若年性認知症支援コーディネーター配置  
 2012年 都道府県協会情報化優良企業表彰最優秀企業賞受賞  
 2015年 三重県若年性認知症施策総合推進事業受託  
 2016年 攻めのIT企業百選  
 2017年 若年性認知症施策総合推進事業  
 “本人支援”を受け、本人2人で「レイの会」発足  
 2020年 第11回全国若年認知症フォーラムを四日市市で開催  
 2022年 三重県若年性認知症サポートセンター開設

### <プロフィール>

イトーファーマシーは調剤薬局、介護保険事業（ケアプラン、訪問介護、デイサービスなど）を経営の中核に若年性認知症支援活動を行っています。

認知症対応型通所介護「デイハウス沙羅」では利用者の半数が若年性の方で、本人の会「レイの会」はここから誕生しました。

2010年に三重県「若年性認知症ケアモデル事業」を受託し、全国に先駆けて社内に公的な「若年性認知症支援コーディネーター」を配置し、22年からは「三重県若年性認知症サポートセンター」を若年性支援事業の活動拠点としています。

代表：伊藤美知

・イトーファーマシー施設長  
 ・若年性認知症支援コーディネーター長  
 513-0818 鈴鹿市安塚町 638-16  
 電話：059-382-8490  
 e-mail：ito@ito-pharmacy.jp  
 hp：http://www.ito-pharmacy.htm/

### <主な活動>

若年性認知症サポートセンター  
 研修会 意見交換会 ネットワーク会議  
 若年性認知症支援コーディネーター  
 相談 講演 就労支援 地域連携  
 居場所づくり 本人・家族支援

本人の会「レイの会」  
 デイハウス沙羅での収入につながる活動  
 施設管理 洗車 畑仕事と収穫・販売  
 本人講演 制作物作成 チラシ折り  
 レイの会 in 四日市

## 活動の記録

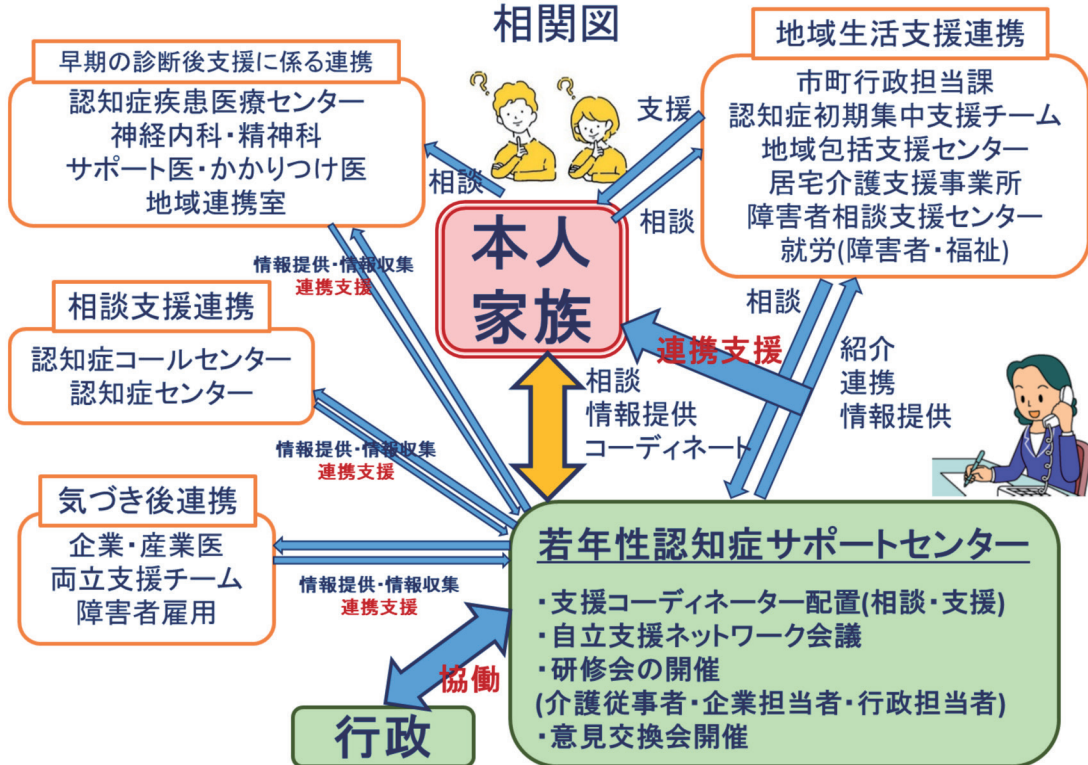
### [三重県若年性認知症サポートセンター]

2021年4月、三重県の委託を受け「若年性認知症サポートセンター」をイートファーマシー内に開設しました。

2010年から推進してきた県の委託事業「若年性認知症ケアモデル事業」と「若年性認知症施策総合推進事業」をこのセンターに集約したのです。

### 三重県若年性認知症施策総合推進事業

#### 相関図



## ■若年性認知症支援コーディネーター

サポートセンターには“若年性認知症支援コーディネーター”を1名配置しています。これは厚生労働省の「認知症施策推進総合戦略」で都道府県（一部指定都市）ごとに設置されている「若年性認知症のワンストップ相談窓口」です。若年性認知症の人や家族のニーズや相談内容に応じて関係機関やサービス担当者へつなぎ、調整役を担います。本人が自分らしい生活を継続できるように、総合的なコーディネートをするのです。

若年性認知症サポートセンターでは総合相談や支援活動、各種研修や啓発活動を組織的に行っています。

### <相談>

若年性認知症に悩む当事者や家族、行政、包括支援センター、介護事業所などからの相談に応じています。企業からの相談にも応じます。内容は「疾患」「ケアの方法」「支援制度」「就労」など多岐にわたります。電話やメールによる相談から来所してもらっての面談、時には訪問相談も行います。

具体的には、相談への対応やさまざまな社会制度、社会資源などに関する情報の提供、若年性認知症に関する知識の普及・啓発のための研修会の開催などを行います。若年性認知症の本人や家族だけでなく、企業の方の相談も受け付けており、認知症が疑われる時期から相談が可能です。

### <講演・研修>

県内の市や町、認知症疾患医療センターなどからの依頼に3人のスタッフで当たっています。

—研修会や説明会—

1. 行政担当者向け研修
2. 介護従事者向け研修
3. 意見交換会
4. 企業担当者向け若年性認知症説明会
5. 若年性認知症自立支援ネットワーク会議



三重県若年性認知症意見交換会

### <就労支援>

三重県障害者支援センターや地域包括支援センターなどと緊密に連携し、企業に向いて人事労務の担当者や産業医などと個別の案件について協議し、支援を要請します。

### <地域連携>

各市町の担当者や認知症地域推進員と連携し、社会資源の創出に努めています。社会資源というのは生活上のさまざまな問題

に関する福祉制度や施設、人的資源などのことです。

認知症サポーターのグループ、“チームオレンジ”と協働した支援活動も行っています。外出支援、見守り・声掛け、話し相手、出前支援などです。

#### <居場所づくり>

若年性認知症の人は就業機会を制限されることで、友人や仲間などとのコミュニケーションの場（居場所）を失いがちです。認知症ケアの上からも仲間づくり・居場所づくりは大切です。

1. 「レイの会」（若年性認知症本人の会）のメンバーの支援で“出張レイの会”を開催し、新たな居場所づくりに力を入れています。出張時は若年性認知症本人によるピアサポート活動（相談など）も実施しています。



出張レイの会（四日市）のクリスマス会

#### 2. 県内各地域の居場所の創出

若年性認知症支援に理解のある事業所（介護保険や障害サービス）に出向き、若年性認知症者の受け入れ依頼を行っています。

#### <本人・家族支援>

若年性認知症当事者の声を市民に聞いてもらう「本人発信」活動に力を入れています。

##### 1. 当事者の講演活動の支援

認知症サポーター養成講座やキッズサポーター養成などで本人が講演する機会が増えました。わたしたちはサポート役を務めます。

また、家族の想いや工夫の数々など専門職や他の当事者家族へのメッセージとして伝える場として「意見交換会」を開催しています。

##### 2. 当事者の意見を反映できる環境の設定

「三重県認知症施策推進会議」の委員として、若年性認知症本人の意見を集約し、県に提言する活動をしています。

家族の方には「若年性認知症自立支援ネットワーク会議」の委員として意見を述べていただいています。

## [本人の会「レイの会」]

イトーファーマシーは2001年に認知症対応型通所介護「デイハウス沙羅」を開設しました。当初から若年性の方の利用が多く、22年6月現在では半数近く、11名が若年性認知症の方です。

17年10月。デイハウス沙羅の二人が意気投合し、「認知症になっても立ち止まらずに、前を向いて生きていける会を作ろう」と認知症本人の会を起ち上げました。名称の“レイの会”も本人たちの発案です。

Lay your hand on mine.

私たちは手をあげています。ここにあなたの手を載せてください。一緒に歩みましょう。

18年度からは「若年性認知症施策総合推進事業」の中で、運営支援を行っています。

「レイの会」は現在、月・水・金のデイハウス沙羅で、高齢の方とは別メニューで開催しています。

### ■レイの会の開催状況

1. 「デイハウス沙羅」での活動  
収入につながる仕事—「洗車」「施設管理」「物品製作と販売」「チラシ折り」—を中心に、外出活動などを行っています。

—レイの会 一日の活動プログラム—

- 9:30 来所バイタルチェック
- 10:00 朝のミーティング（司会は当番制）
- 掃除“レイの会体操”

作業・打ち合わせ

- 11:30 昼休み
- 13:30 午後の活動（洗車・外出・他の作業）
- 15:00 おやつ
- 16:00 振り返り 帰りのミーティング
- 16:30 帰宅

<洗車の仕事>



“チームオレンジ”と連携、8人で4台を洗車



洗車の謝金は1回3000円

<本人講演会>



レイの会会員5人による講演

<畑仕事>



収穫した玉ねぎを3個200円で販売

<SDGsの取り組み>



ペットボトルのキャップが56人分のワクチンに

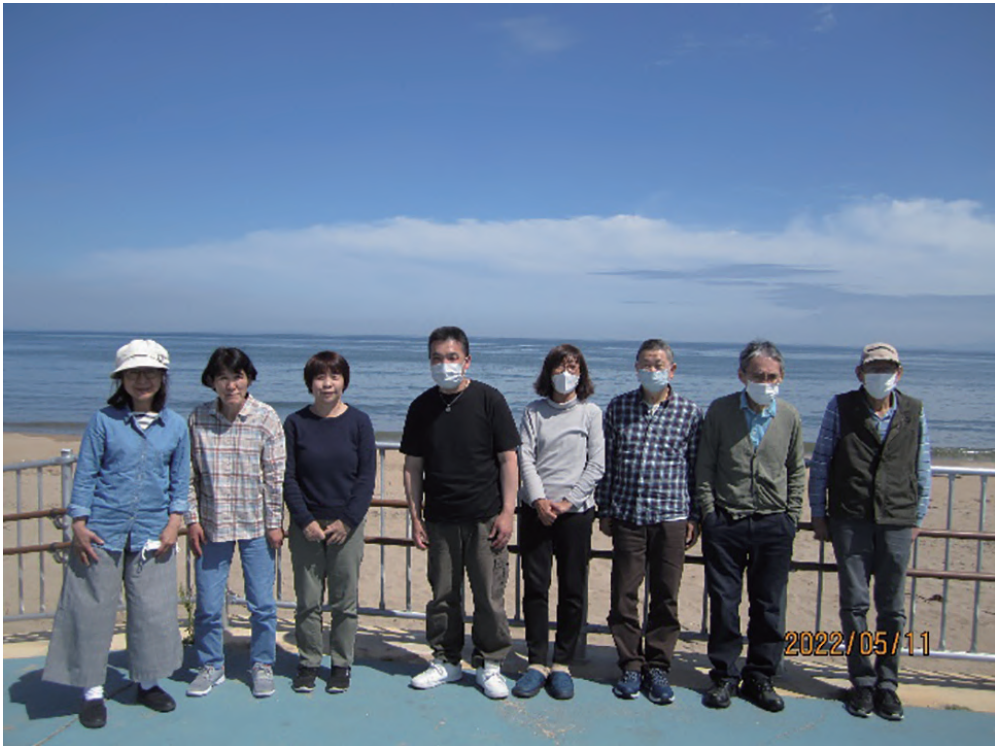
<お出かけ活動>



石垣池の散歩



鈴鹿博物館



河芸ヨットハーバー

## 2. レイの会 in 四日市の活動

2018年に活動開始しました。偶数月の第4土曜日に四日市市で開催しています。広く三重県内の若年性認知症の人たちへ声をかけて集まってもらっています。活動の内容は「茶話会」「散歩」「クリスマス会」などです。

新型コロナ禍では、鈴鹿市の“デイハウス沙羅”をステーションに「レイの会 in 四日市市 Zoom 交流会」を実施しています。

四日市市の協力で、四日市福祉会館で東海3県とのZoom交流会も行いました。



レイの会 in 四日市市 Zoom交流会

2010年度より行っている「三重県若年性認知症施策総合推進事業」では、初年度から若年性認知症支援コーディネーターを配置し、三重県全体の若年性認知症支援の体制づくりを行ってきました。今まで実施してきた事業は当事者本人や家族のニーズ

に基づいて取り組んできました。「レイの会」の存在はこうした事業の展開にとっても役立っています。事業と当事者が連携できる関係は三重ならではのことでと思っています。

### 「認知症川柳」



認知症になったら悪いことばかり、という訳ではないんです。そこから出会える大切なものもあるんです。



上る時は階段が生まれるように出てきて面白いけど、下る時はつるつるした滑り台のように見えて、怖くて第一歩が踏み出せないんです・・・。